

おきみさま がらだ

2013



vol.131

12



はいっポーズ!

《端野地区・協和》

木村和巳さんとひなたちゃん・琥太郎くん

（紹介は2ページです）

特集

- きたみらい合併10周年記念式典
- 平成25年産
農畜産物を振り返って

「JA合併10周年記念式典」、「組合員感謝の集い」 10年の歴史を糧に、新たな発展を誓おう!!

当JAでは、本年1年、合併10周年記念事業を次々と敢行してきました。一大事業の締めくくりとして、11月8日、北見市民会館で「記念式典」と「組合員感謝の集い」を開き、組合員、役員をはじめ関係者多数出席のなか、盛大に行われました。

JAの発展に顕著な「功労者表彰」、1市2町への「車イス寄贈」、そして「堀内孝雄歌謡ショー」について特集で紹介いたします。

一連の記念事業を敢行 10周年の1年を振り返る

記念事業を振り返ると、6月にコンサドーレ選手を迎え、「よい食大使」として、「サッカー教室」を通じ、



▲参加者全員起立し、JA綱領を朗唱

未来を夢見るサッカー少年に、食の大切さを伝える事業を実施しました。7月には、一般の消費者の方に呼びかけし、「酪農祭」を実施しました。さらに、10月には、ファミリランドで「ふれあい農業祭」を開催、地域住民そして組合員家族約1万人にご来場いただきました。

また、10年の歩みを後生に残すため、記念誌「挑戦!10年の記録」も制作されました。旧JAから準備委員会さらに生産組織の足跡にも触れ、写真を織りませ、200ページに及び読み応えのある一冊となっています。11月に全組合員、役員、関係者に配布されています。

記念事業を締めくくる式典を挙行 先達への謝意を込め功労者を表彰



▲式辞を述べる西川組合長

記念式典では、当JAの設立から現在までの発展に尽力いただいた36人の功労者を表彰しました。

西川組合長は、「JAの使命は組合員の営農と生活を守ること。はもろろん、組合員が生産した安心・安全・良質な農畜産物を消費者へつなぐ架け橋となること。経営の健全化と組織基盤を確立し、地域や社会の信頼を得ることです」と式辞を述べ、さらに「JAきたみらいは魅力あるJA、選ばれるJA、地域に貢献できるJAとして、協同の絆と豊かな発想により、希望あふれる新時代をめざし、10年の歴史に加え、さらに躍

進することを約束します」と、力強く誓いの言葉を述べました。北海道議会の高橋文明議員と北海道中央会の長谷川幸男副会長より、お祝いの言葉とこれからの活躍に期待を込めた祝辞をいただいた後、祝電披露、表彰式が執り行われました。表彰式では、旧JA組合長と歴代の組合長、専務、常務、代表監事、常勤理事、非常勤監事、参事の方々、西川組合長から一人ひとりに感謝状と記念品が贈呈されました。表彰者を代表し、元常務理事の木暮健一氏は、「身に余る光栄に感謝します。JAきたみらいは、取り巻く環境変化と組織の基盤強化及び組合員と地域への役割を果たすため、6年の年月をかけて大同団結による合併を成し遂げ実現しました。その過程では、組合員、役員、関係機関との多くの出逢いがあり、ご協力ご支援をいただいたことは、JAきたみらいの大きな財産となっています。



▲表彰された功労者を代表し、謝辞を述べる木暮健一氏

す」と当時を振り返るとともに、「先達への感謝と任期中に出逢ったすべての人に感謝し、これからも組合員の皆としてJAの役割に期待します」と謝意を述べました。

表彰された功労者の方々

○旧JA組合長

- 長尾 誠一 故加藤 勝美
- 伊東 勇 故高橋 俊一
- 中山外亀雄 合田 孝一
- 加藤 孝幸 木暮 健一
- 歴代組合長 加藤 孝幸
- 故高橋 俊一
- 歴代専務 西森 信夫
- 歴代常務 木暮 健一
- 佐藤 幸光 寺崎 義一
- 歴代代表監事 齊藤誠司郎 福田 節幸
- 歴代常勤監事 加藤 國昭 尾崎 和憲
- 歴代非常勤理事 中川 強 天沼 偉一
- 木村 則夫 西原 政昭
- 太田 豊 松田 契一
- 安達 信夫 井上 啓一
- 長田 保 大澤 健二
- 中山 譲二 高橋 正
- 山下 哲生 高橋 勉
- 吉田 千秋
- 歴代非常勤監事 堀内 悟
- 歴代参事 柴田 憲 加藤 正徳
- 森下 直治 作田 忠一



▲表彰された功労者のみなさん

○歴代参事	柴田 憲	森下 直治	加藤 正徳	作田 忠一
○歴代非常勤監事	堀内 悟			
○歴代非常勤理事	吉田 千秋	山下 哲生	中山 譲二	長田 保
○歴代代表監事	齊藤誠司郎	加藤 國昭	中川 強	木村 則夫
○歴代常勤監事	加藤 誠司郎	加藤 國昭	中川 強	木村 則夫
○歴代専務	西森 信夫			
○歴代常務	木暮 健一	佐藤 幸光	寺崎 義一	山本 寛身
○歴代代表監事	齊藤誠司郎	福田 節幸	尾崎 和憲	天沼 偉一
○歴代常勤監事	加藤 誠司郎	加藤 國昭	中川 強	木村 則夫
○歴代非常勤理事	中川 強	木村 則夫	太田 豊	安達 信夫
	長田 保	中山 譲二	山下 哲生	吉田 千秋
	堀内 悟	柴田 憲	森下 直治	

(敬称略)

福祉に「車イス100台」を寄贈



▲車イスの寄贈を受ける櫻田北見市長(左2人目)、訓子府町社会福祉協議会佐野会長(右2人目)、置戸町社会福祉協議会杉本会長(右1人目)

記念事業のひとつとして、当JA管内の北見市・訓子府町・置戸町の福祉協議会や学校・公共施設に車イス合計100台が寄贈され、目録が手渡されました。寄贈先を代表し、櫻田北見市長は、「100台の車イスを寄贈いただき、ありがとうございます。様々な公共施設で有効に使用させていただきます。福祉向上のため、1市2町の財産として大切に使用させていただきます」と感謝の意を述べました。

「組合員感謝の集い」歌謡ショー 堀内孝雄「幅広いジャンルで熱唱」



▲演歌からドラマ主題歌、アリス時代の曲など19曲を熱唱した堀内孝雄さん

式典終了後、「組合員感謝の集い」として、堀内孝雄 歌謡ショーが行われ、記念式典の表彰者や参加組合員、JA共済や貯金、燃料自動車事業利用者など1300人を招待しました。堀内さんは巧みな話術で来場者を

笑わせ、ドラマの主題歌やアリス時代の名曲など多くのヒット曲を披露。ポップスから演歌まで幅広いジャンルの曲を熱唱し、堀内自ら観客にアンコールをお願いするなど、会場は大いに盛り上がりました。

平成25年産 農畜産物を振り返って

平成25年産も残り20日余りとなりました。春の植付けは平年より若干遅れ、その後も干ばつ、収穫時期の断続的な降雨が続き、不順な天候に見舞われた1年であったことと思います。平成25年度の農畜産物を特集として、振り返ってみたいと思います。

水稲

作況指数 109の豊作

育苗は4月27日より低温・日照不足が1カ月近く続いたことから生育不良となり、マント苗・型枠苗を中心に苗立枯病が多発し、移植作業は



初の快挙 4年連続の豊作

きたみらいもち米振興会 会長 森谷 雅美

本年の耕起作業は平年並みに始まりましたが、4月27日の降雪とその後の断続的な降雨により3週間程作業が出来ず、移植作業も1週間遅れで始まり、終了は6月15日頃となりました。6月下旬からの記録的な干ばつの中でも生育は順調に進み、一部ではいもち病の発生もありましたが、きたみらい平均反収は9.0俵、製品反収7.9俵、正品歩留88%の全量1等米となり、4年連続の豊作となりました。過去3年連続の豊作はありましたが、4年連続の豊作は初の快挙ではないでしょうか。今後も実需者に安定供給できる「きたゆきもち」の作付を維持することが大切だと考えます。もち米を巡る情勢は、繰越量の増加による大幅な需給緩和の影響も懸念され、厳しい環境ではありますが、安心なもち米の安定生産に向け、今後とも関係機関と協議して参りたいと思います。

もち米を巡る情勢は、繰越量の増加による大幅な需給緩和の影響も懸念され、厳しい環境ではありますが、安心なもち米の安定生産に向け、今後とも関係機関と協議して参りたいと思います。

本年、葉いもちの初発が早く、出穂期の基幹防除前に葉いもちの蔓延が散見され、8月の多雨・多湿傾向により発生は長期化し、収穫前に穂いもちに移行するほ場が多発しました。8月中旬からは日照時間が少なく、遅れ穂を中心とした後期登熟は緩慢となったことから、収穫期間は延び9月17日から始まり、10月7日で終了しました。平成25年産の水稲は、作況指数109（前年114）と4年連続の豊作となり、収量は穂数、一穂粒数ともに少なく、収量構成要素は不足したものの登熟後半の土壌水分が適正に保たれたことから千粒重は22.8g（前年21.1g）と非常に重く、10ヶ当たり538kgを確保でき、品質面では、登熟のばらつきといもち病の発生により色下・網下率は増え、製品歩留は昨年より下がったものの着色粒は少なく全量1等となりました。

きたゆきもち	反収	等級	製品歩留	色下歩留	網下歩留
平成25年産	538kg	1等	88.2%	5.0%	6.8%
平成24年産	554kg	1等	92.4%	3.4%	4.2%

麦類 歩留り高く 全量1等Aランク

◆秋まき小麦

は種作業は概ね順調で越冬前茎数も平年並みでした。起生期も平年並みとなりましたが、4月下旬からの低温・降雪により生育は遅延し、幼穂形成期・止葉期はやや遅れました。6月以降は気温が高めとなったことから出穂期・乳熟期は平年並みに回復、その後、7月は高温・干ばつで推移したため、登熟期間が短縮し、成熟期はやや早まりました。

収穫は前年より3日早い7月28日から始まり、好天に恵まれたことから順調に進みました。本年度の収量は、規格外込みで反当平均503kgと前年の585kgを下回りましたが、正品歩留まりは高く1等比率で95.0%（前年92.1%）となりました。

品質面では、遅れ穂による青未熟粒割合の高い原料も見られましたが、総じて細麦粒は少なく粒張りも良く、すべてにおいて容積重・タンパク・灰分・FN（フオーリンゲンナンバー）が基準値以内となり全量1等Aランクとなりました。

◆春まき小麦

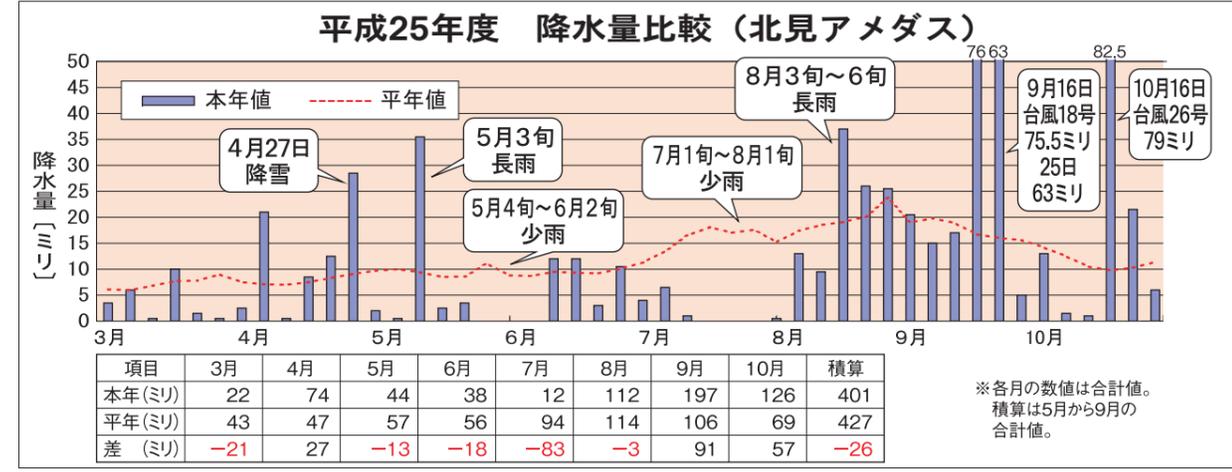
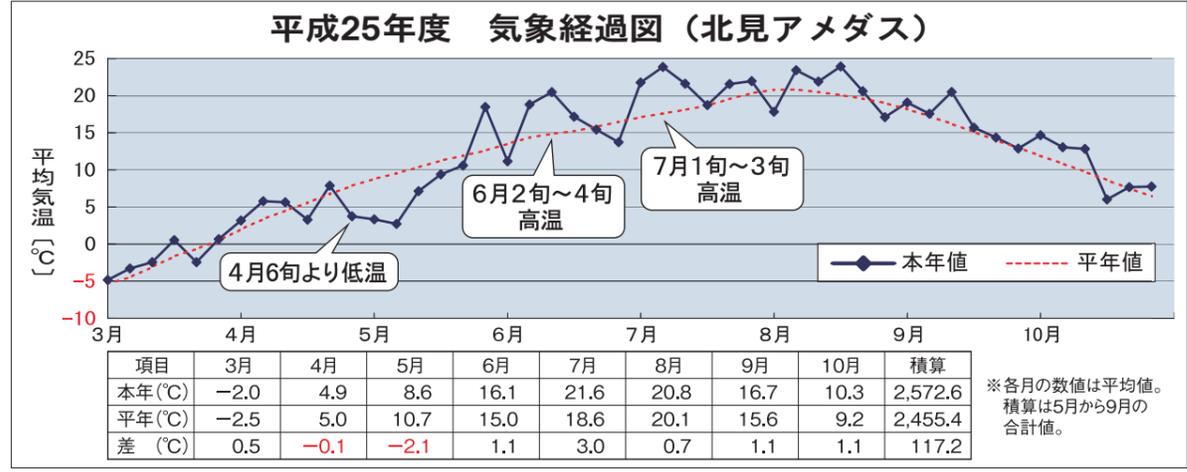
は種作業は平年並みで出芽も良好でした。5月中下旬の低温と長雨により生育は遅れ気味に推移し、6月下旬から7月上旬は降水量が多く、8月上中旬は低温に推移したため成熟期は2日遅れとなりました。収穫については、8月7日より始まりましたが、高温干ばつによる細麦粒や開口未熟粒が平年よりやや多く、後半雨の影響による一部穂発芽の発生により、収量は規格外込みで375kg（前年406kg）と、製品歩留りは83.5%（前年88.2%）と前年に比べやや下回る結果となりました。

品質ではすべて基準値をクリアし全量1等Aランクとなりました。

秋まき小麦は 高歩留り

きたみらい麦作振興会 会長 河合 正福

25年を振り返ってみますと、例年よりも降雪量は多く心配されましたが、融雪は進み、順調な春作業を期待しました。しかし、4月末から5月末まで天候不順で推移し、春作業は大幅に遅れる事態となりました。6月に入り天候は回復しましたが、6月末から7月一杯にかけて干ばつ状態に一変しての収穫作業となりました。当然、収量も前年比で10%以上の減収と残念な結果となってしまいました。しかし、当初は歩留りもかなり下がると予測しておりましたが、秋小麦に関しては前年よりも高い数値を確保できたことは非常に明るい話題であり、次年度に向けての大きな励みになりました。最近、農業情勢も天候も安定しておりませんが、共に良い方向となり、来年こそは素晴らしい出来秋になればと心から祈っております。



特集 平成25年産 農畜産物を振り返って



玉葱農家の経験と誇りを

きたみらい玉葱振興会
会長 小野 洋一

平成25年を振り返ると、春先の暴風雪で定植期に作業は始まったものの不順な天候に翻弄され続け作業の終わりに先が見えず、また、生育初期・中期以降も少雨、干ばつが続き健全生育へ向かう条件も一向に揃わず「作物を育てる」という農業という職に、またもや試練を突きつかされる年となりました。

この冬期に、昨秋耕期のほ場状態や土壌条件、また、気象環境などについて会員の皆様方には是非振り返っていただきたいと希望するところです。

特に、堆肥散布や心土破碎、プラウ耕など各作業時のその都度都度の条件や、昨今の降雨傾向、また、本年の春先に生じたような「整地と定植」のほ場状態や土壌凍結の強弱などに始まり、「昔はなあ〜」と言っているうちに環境は目まぐるしく変化していると感じませんか。

遠い過去から現在まで毎年同じ天候はなく、今まで、生育条件にこの地域の環境がたまたま合っていただけで、恵まれていた条件から徐々に外れつつあることに目を向けるときが来たのだと思わずにいられません。そして今こそプロの玉葱農家の経験と誇りを内外に見せつけるときが来たのです。求められる結果は、自然環境の変化に適切に対応し、品質も生産量も消費地に理解される北見玉葱なのです。解決の近道は「天候」ということですが、「天候」の二文字を決して理由とするのではなく、真にプロの技術で乗り越えたときには、きたみらいの玉葱生産者は「違う」といわれるはずで、そこへの到達には、500名の生産者の「知恵の結集」と「固い結束」が不可欠です。26年こそは「プロ集団」として更なる玉葱農家の飛躍の年となるよう祈念します。

平成25年を振り返ると、春先の暴風雪で定植期に作業は始まったものの不順な天候に翻弄され続け作業の終わりに先が見えず、また、生育初期・中期以降も少雨、干ばつが続き健全生育へ向かう条件も一向に揃わず「作物を育てる」という農業という職に、またもや試練を突きつかされる年となりました。

もみじ2000になりM規格が高い選果比率となっております。販売は8月中旬より北海道産(極早生種)の販売が開始されました。本年産は府県産(兵庫・佐賀)の高値及び入荷量が安定しなかったこともあり、北海道産への切り替えはスムーズに行われました。その一方で、M規格の発生が非常に多かったこともあり販売当初は苦戦を強いられました。が、9月以降早生種に切り替わりM規格減少、収穫時の天候不良による出荷量減少、コンテナ輸送の乱れ、野菜全般の高単価等により引き合いは強く、販売当初より順次上がった価格帯で推移しています。現在も10月末の台風の影響により、野菜入荷量減少により野菜価格高傾向、消費地の気温低下による冬物商材への移行、北海道産供給減等により強含みとなっております。輸入品は、量販店で少しずつ売られ始めていたのが一部量販店では本格投入が開始されています。今後も

北海道産の出荷量によっては販売店、卸や販売量の拡大が懸念されます。25年産は北海道全域で平年作を大きく下回る生産量となり、現在消費地では入荷待ちといった状況ですが、適正選果の徹底と消費地及び輸送動向を見極め、全道足並み揃った販売諸対策を取り進め、北海道玉葱の売り場を確保し、市況作りを行ってまいります。

◆11月15日現在改装状況 選果基数(一般)47,918.5基(前年同期71,857.8基)

	2L	L大	L	M	小計	長玉	加工	S	屑	合計
25年産	1.6%	17.7%	41.8%	28.9%	90.0%	0.2%	2.6%	6.1%	1.1%	100.0%
24年産	14.8%	45.0%	25.8%	6.4%	92.0%	0.2%	4.0%	0.6%	3.2%	100.0%

◆11月15日現在 北見地区共計単価2,142.44円(前年同期1,736.05円)

◆作付生産概要(11月10日現在)

	作付面積(ha)		10a収量(kg)	生産量(t)	商品化量(t)
	全	道			
H 25	全	12,291	4,340	533,150	497,810
	きたみらい	4,453	4,180	185,993	179,264
H 24	全	12,168	5,500	669,290	625,710

◆系統販売計画(11月10日現在) (単位:t)

	生食				加工向け(JA扱含む)	年産合計
	合計	年内計画	年内進捗	年明計画		
25年産計画	307,640	196,090	63.7%	111,550	99,260	406,900
24年産実績	386,920	246,510	63.7%	140,410	139,510	526,430

玉葱 道内主産地で低収量

全道では12,291ha、きたみらいの作付け面積は、4,453haとなり、道内主産地での低収量となりました。

植付け開始は昨年同様4月20日頃から始まりましたが、4月下旬以降は断続的な降雨により地区によっては3週間程度の植付け作業中断を余儀なくされました。5月20日以降は天候が回復しましたが、平年より植付け作業は大幅に遅れました。

網走管内では、5月下旬より天候が回復したこともあり生育は順調に推移しましたが、6月中旬から8月上旬にかけての降水量は過去最低を

記録するなど記録的な干ばつとなり、植付け作業が平年より遅れたこともあり生育は抑制され、7月中旬〜8月上旬にかけて気温上昇もあり、肥大に厳しい生育環境となりました。このようななかで、道内主産地は低収量となり、全道平均反当り4,340kgと過去5カ年平均を770kg下回り、当JA平均反収も4,180kgと過去にない低収量となりました。

品質は、干ばつの影響を受け乾腐病の発生が心配されましたが、極早生から現在まで発生も少なく色採が良く汚れも少ない状況で総じて良好に推移しています。特に外品・クズが発生が少なく正歩留りの高い状況となっておりますが、11月より北

豆類 長雨の影響で収穫遅れ

大豆・小豆のは種期及び出芽期は、平年より遅れ、高級菜豆では平年並みとなりましたが、少雨の影響により出芽ムラとなりました。その後、高温干ばつと気象変動が大きかったものの高温で経過したことから、生育は概ね順調に推移し、開花期は平年並みからやや早まりました。収穫期に入り、長雨の影響と一部地域では降雪により作業は停滞した

ことから、子実の乾燥が進まず収穫には大変苦労した年となりました。品質については、降雨や降雪の影響を受けたことから、小豆は過熟気味、大豆は成熟ムラがありました。白花豆・紫花豆は平年に比べ粒揃いは良く、大粒が多いが、不乾の割合が高く、しわや変形、腐敗も多い傾向となりました。収量については、相場差があるものの大豆4.4俵、小豆5.3俵、虎豆5.3俵、大福5.3俵、白花豆・紫花豆で4.9俵と前年を上回る見込みとなっております。

てん菜 生育停滞し収量差大きい

春作業は異常低温と度重なる降雪により、ほ場の過湿や地温低下など条件悪化に拍車がかかり、作業の著しい妨げとなりました。6月から7月にかけては、ほとんど降雨がなく干ばつの影響から生育も停滞しました。9月に入り冷涼な気候で推移したことから生育は回復しましたが、春先からの天候が大きく影響し収穫量見込みで約4.85t/10a、糖分は16.6%と個人差も大きい年となりました。

てん菜は地域の基幹作物として、地力増進・維持のため輪作体系上欠かすことのできない重要品目であり、地域経済の発展を図るうえでも継続し作付を維持することが必要です。面積減少に歯止めがかからない状況の中、24年産の糖度が糖分取引以降後最低の糖度を記録したことをうけ、算定糖度の引き下げと単価の引き上げを強く求めてきた結果、26年度より基準糖度が17.1%から16.3%に変更となり、「てん菜の交付単価」(数量払い)は糖度16.3%の場合、現行の5,914円/tから7,260円/tとなり1,346円/tに上がります。今回の制度の見直しで今まで以上にてん菜を作りやすい環境になり、すのてん菜の機会に増反のご検討をお願いします。



異常気象に負けない営農

きたみらい豆類振興会
会長 茂住 修二

25年産豆類を振り返るとは種作業は概ね順調に進みましたが、その後少雨傾向のため発芽が揃わず厳しいスタートとなりました。

その後も高温干ばつのため生育ステージも遅れ気味でしたが、何とか8月頃には平年まで回復し安堵しました。

8月下旬に役員によるほ場巡回では秋の収穫に向け、品質・収量ともに平年作を見込めると期待したところでしたが、昨年同様、秋の長雨高温傾向や一部地域では降雪による作業遅延の影響で歩留まりや品質の低下など苦労された年だったと思います。

本年の振興会では、各地区の活動に重点を置き、地区間の交流や勉強会等積極的に活動されたと思っています。

26年産に向けては豆類の面積維持、異常気象に負けない営農を目指して各関係機関と連携し、生産者間の交流を図りながら豆類の発展振興に努めて参りたいと思います。



動向を踏まえ面積確保を

きたみらいてん菜振興会
会長 小林 一明

平成25年を振り返りますと、春の天候不順によりは種、定植作業が大幅に遅れ、さらに6月から7月は雨量が少なく干ばつ傾向となりました。

8月以降雨量には恵まれましたが、前半の初期生育の遅れを取り戻すまではいかないなか、収穫時期を迎えました。

輸送が始まる10月中旬には大型の台風により大雨、一部では降雪となり、その後も降雨が続いたことから収穫作業、原料輸送も大変苦労し、収量糖分ともに平年作に届かない結果となりました。

近年は気象変動が多く、てん菜栽培においても大きな影響を受けております。さらにはTPPを含め政策面においても大変厳しい環境が続いております。今後の動向を踏まえ、生産技術の向上、面積確保に向けて各関係機関のご協力を頂きながら進めてまいりたいと思います。

特集 平成25年度 農畜産物を振り返って



更なる酪農振興を目指して

きたみらい酪農振興協議会 会長 伊藤 稔

本年は4月の連休後からの長雨による播き付け作業の遅れから始まり、7～8月の異常な干ばつと粗飼料確保に苦勞の多い年でありました。特に2番草では早魃の影響により収穫時期を遅らせたり、管外より購入するなど農協と一体となって対応してまいりました。

そのような中で、当協議会では生乳増産対策として乳牛導入事業、生乳増産事業、設備投資に係わる優遇事業等を講じた中で、目標数量達成を目指しているところでもあります。しかし搾乳中止農家が多かったことや、乳牛頭数の減少、高温干ばつの影響で乳牛に大きなダメージがあったことから乳量が増え悩んでおります。酪農経営においても生産資材の高騰、特に円安の影響が最も受ける配合飼料価格が過去最高になるなど経営基盤に大きな影響をもたらしました。そうした中で酪農強化特別対策として乳業メーカーより20銭の上積みがあり役員会の検討の結果、自給飼料生産の増加、植生改善、再生を図り高栄養化の粗飼料確保により地域生産の拡大を図る事を目的として牧草更新は種機6台を導入致しました。26年5月より利用できますので是非植生改善を含め自給率の向上に役立てて頂きたいと思っております。来年はTPP、消費税と農業にとって非常に厳しい環境になります。協議会としてもこれに対応すべき強化対策費10銭を含めた総合的な対策案を策定し27年度より行いたいと思っておりますので、会員各位のご理解ご協力をお願い致します。最後に生乳年度の増産に特にご協力をお願いいたします。

25年度は生乳の増産目標の設定に加え、出回り頭数が前年の8割程度のため、資源不足から相場は比較的高値で推移しています。

乳用牛

引き合い強い

であった生乳生産は減少となり、今後においても暑熱ストレスの影響や疾病の増加に加え干ばつと、長雨で粗飼料の品質の低下が見られました。当地区の一番牧草収量は平年を下回る92%、二番では72%とさらに下回っている状況にあります。デントコーンの収量も平年を下回る98%。今後は粗飼料不足から制限給与にて対応することが予想されますので、急激な生産乳量の回復は見込めない

例年であれば牧場からの下牧で資源は増加しますが、暑熱事故などの更新需要やメガファームの導入などにより強含みで推移するものと思われま。一部の府県では早くも4月分挽までを要望するなど、年明けも活発な動きが予想されます。

と想われます。JAとしても酪農家の求めに対応すべく、生産技術や経営指導を実施し、各種情報の提供に努めてまいりました。生産性の向上にむけて生乳増産対策事業を実施することで、きたみらい地域の目標達成に向け、生産基盤の脆弱を招かぬよう、牛群の効率的な増頭による生産基盤の強化、生産性の向上に資することを目的に取り組んでいます。



和牛素牛価格の回復

きたみらい黒毛和牛振興会 会長 島尻 勝

今年は異常気象の一年となり、特に7月の雨不足は畑作物全般に悪影響をもたらし、更に8月以降収穫期まで天候不順となり作業に支障をきたしました。

和牛素牛の状況は、宮崎県の口蹄疫の発生と東日本大震災による原発事故の影響から価格が低迷しておりましたが、ここにきて全国的に素牛が少ないことと肥育農家の導入意欲が活発に推移したことから6月以降5ヶ月連続で値を上げて11月には6年10ヶ月ぶりに53万円台に乗せました。今後は繁殖雌牛が全国に減っているため相場は一服する気配はなく当面高値で取引される見通しにあります。ただ、高値の次は安値の流れから、その状況に備えた血統の良い繁殖雌牛を確保しなければなりません。きたみらい地域においては、血統の良い若い繁殖雌牛を揃えることと素牛の適正飼養管理に努め高値取引を目指したいと考えております。

2014年が良い年になりますように。

全国的に飼養戸数の減少にともない、と畜頭数も全国的に減少傾向が続いています。震災の影響で牛肉離れが進み枝肉価格は下落したものの、現在では震災以前の水準に回復しています。配合飼料、初生とく、素牛価格の高値安定により資源不足が続くため、相場も強含みで推移すると思われる一方、一方で牛肉の月齢緩和による輸入もあることから、両面で推移動向を注視しなければなりません。

肉用牛

国産は高値で推移

◇生乳生産実績

区分	目標数量(t)	24年度実績比	25年4～11月数量(t)	進捗率
全道	3,938,875.7	103.0%	2,529,324.0	64.2%
管内	586,040.2	103.2%	375,584.0	64.1%
きたみらい	95,231.7	102.6%	60,902.2	64.0%

◇衛生的乳質実績(25年4～10月)(前年比)

項目	全道	管内	きたみらい
生菌数(1.4万以下)	98.6 +0.1	98.4 +0.0	98.6 +0.7
体細胞数(30万以下)	97.9 +0.4	97.1 0.3	96.1 -1.1

◇共計男しゃく改装状況(11/15現)

年産	3L	2L	L	LM	M	S	小計	B品	空洞	屑	合計
H 25	0.9%	5.2%	23.2%	14.2%	27.6%	9.9%	81.0%	16.2%	0.3%	2.5%	100%
H 24	0.6%	5.8%	26.0%	14.9%	23.4%	8.5%	79.2%	12.2%	5.0%	3.6%	100%

◇北見地区共計販売単価(11/15現) 1,025.15円/10kg(前年同期768.17円)

全道平均(11/1時点)で男しゃく反当り収量3,110kg、十勝管内3,740kg、北見地区では2,840kgとなっており、品質面では、

本年産のは種作業は、低温のなか、4月下旬からの植付けスタートとなったものの、GW以降には、周期的な降雪と降雨により2週間ほど作業は中断し、終了は平年より遅い5月末となりました。道内の馬鈴薯の作付面積は28,788haとなり、前年に対し606ha減少し、近年の面積減少に歯止めがかからない傾向にあります。生育は、植付け時の降雨や低温の影響を受けて、一部発芽不良のほ場もありましたが、6月中までは順調な気象推移となり、7月以降8月中旬にかけては、高温・干ばつでの気象に一変し7月末以降、茎葉の黄変も一気に進んだ経過にあります。全道的にみると、平年並みの収量となっており、産地間での収量増減の格差が大きく生じ、地域別に見ると十勝管内は高収量、後志管内は平年並みとなっている一方、当管内においては近年にないほどの低収量となっています。

加工馬鈴薯の販売環境において、チップについては、全道的な加工品の収量減により引き合いは強いものの、コロッケ、サラダについては、相変わらず活発な動きはみせておらず、油断を許さない環境にあります。品種別の需給動向においては、男しゃくでタイトな見通しになっているものの、他品種においては前年に引

き続き、供給過多での見通しとなっており、前年に引き続き厳しい環境が続いています。現在、消費地の気温の低下に伴い、市況は緩やかに浮場で推移をしている状況にありますが、依然と続く馬鈴薯の需要の減退、九州産馬鈴薯の

馬鈴薯

厳しい販売環境

そうか病、変形果が多少散見されるものの、腐敗果、空洞果が非常に少なく良品質となっておりますが、きらみらいにおいては、M・S比率が高く、総じて小玉傾向の年産となっております。



より安全なものを消費地へ

きたみらい馬鈴薯振興会 会長 平川 千春

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

今年こそはと豊作を期待して春作業が始まった矢先の低温、降雪による植付作業の停滞、生育期には近年稀にみる干ばつによる生育不良、収穫期においては、ご多分にれずゲリラ豪雨による収穫作業の停滞など、馬鈴薯の生産環境にとっては大変厳しい年産となりました。

温根湯

珍・好プレー続出!

**～青年部フレミズJA職員
合同ミニバレー大会～**



▲白熱したプレーの参加者

JAきたみらい青年部温根湯支部（東海林健支部長）は11月30日、温根湯小学校体育館にて青年部、フレミズ、JA職員合同の計4チームの総当たり戦を実施、白熱したプレーのなか、珍プレーも続出し、会場を賑わせました。

当日は総勢24人が参加、青年部、フレミズ、JA職員混合の計4チームの総当たり戦を実施、白熱したプレーのなか、珍プレーも続出し、会場を賑わせました。

農作業も一段落してきたところでのミニバレーで参加者は汗だくになり久しぶりに身体を動かしていました。

終了後の表彰式では、見事全勝した優勝チームに支部長より景品が授与され拍手が送られました。

その後、一旦解散して場所を温根湯にある「福寿草」に移し懇親会を開催、今年の営農の話やミニバレー大会の話などで大変盛り上がりがありました。

相内

**ジュニア4H
収穫祭**

**～会員や父母ら
50人が参加～**



▲精いっぱい杵を振り下ろす会員

相内地域ジュニア4Hクラブ（松井秀樹支援父母の会長）は11月17日、西相内多目的地域会館で、10時より収穫祭を行いました。

収穫祭には、会員と父母、北見市、網走農業改良普及センター、JA職員など関係者50人が参加しました。

会場には、収穫体験作業や夏のふるさと見学会で陶芸体験の「コーヒーカップ作り」の写真が展示され活動内容を振り返っていました。

今回は新たに「野菜O×クイズ」が加わり、題材を佐竹普及指導員に作って頂きました。

会員には少し難しかったようでしたが、頭をひねりながらクイズに挑戦していました。ほかにも餅つき大会やみんなで収穫した玉葱・馬鈴薯・人参を使った美味しいシチューを作り、全員で味わいました。その他にも綿あめやドン菓子、焼き肉でお腹いっぱいになるまで楽しみ、親睦を深め、今年初めて植付したサツマイモのおみやげをもらい、盛会のうちに終了しました。



▲流れ作業で長いもの箱詰めを行う長部さんと奥さんの節子さん

**ずんぐりと
太っちょの**

上常呂

**～長いもまつりに向け
箱詰め作業～**

上常呂地区広郷の長部直行さんのほ場で11月1日、長いもの収穫を始まりました。

長部さんは15年ほど前より長いもを作付け、通常の種類とは違う、1本700g程度の大きさで完熟し、粘りが強い特徴をもつ品種「ずんぐり太郎」を栽培しています。

今年の長いもは少し小ぶりですが、収量は反当2000kg程度3日ほどでほ場からの収穫を済ませ、11月17日に行われる「長いもまつり&収穫祭」に出品するため、付着した土砂をブラシで落とし、大きさを毎に選別、1本ずつ傷が付かないように気を配りながら、箱詰めしていきました。

今年の長いもの出来について長部さんは「干ばつの影響で平均的に小ぶりだが、形は良く、ずんぐりと太っちょの長いもが多く取れた、味も甘く、粘りも強く美味い」と話してくれました。

置戸

**安全運転
呼び掛け**

**～啓発活動に
部員10人が参加～**



▲呼びかけを行う部員

女性部置戸支部（東海林静子支部長）は11月1日、JA駐車場前で交通安全の街頭啓発を行いました。

この活動は毎年、北見警察署置戸駐在所の協力を得て行われています。

今年も部員自らが栽培した玉葱や馬鈴薯、街頭啓発用に種子を配布し育ててもらった南瓜などを持ち寄り、安全運転を呼びかけたチラシを入れ袋詰めされたものが約50袋出ま上がりました。

街頭啓発活動に参加した部員10人は、交通安全の黄色い旗を振りながら、出来上がった野菜の袋詰めをドライバー一人一人に手渡し「安全運転をお願いします」などと呼び掛けました。

参加した部員は「この活動を通して、町民が一人でも安全運転を心掛けてくれれば寒い中やっている甲斐はあるね」と話してくれました。

端野

**無人ヘリで
農薬を散布**

～秋まき小麦防除
106戸520畝～



▲秋まき小麦の農薬散布を行う無人ヘリ

端野地区・忠志のほ場で11月11日より、無人ヘリコプターによる秋まき小麦の雪腐病を防除する農薬散布が行なわれました。

委託業者による無人ヘリでの農薬散布は平成12年より開始。農作業も終盤となったこの時期、ほ場の状況に影響されずに作業ができること、防除効果も高い無人ヘリでの散布を希望する生産者が増えています。

無人ヘリを操縦するためには特定のオペレーター技能講習を受け、免許の取得が必要となります。今年もヘリコプター4機が巧みな操縦により宙を舞い、ほ場全体に農薬を散布していきましました。

106戸の申込みとなり、約520畝のほ場で行なわれましました。

作業中の天候に恵まれ、11月11日からの散布は5日間で終了しました。

北見

**発見！
私に似合う色**

～女性部研修会に
部員17人が参加～



▲講師の色合わせを興味深く観察する部員たち

女性部北見支部（井上峰子支部長）は11月21日、北見地区事務所で開催を聞き、部員17人が参加しました。

研修会では北見市が主催する出前講座より土田恵子さんを講師に招き、「しあわせを感じる色と形」というテーマを受講。土田さんは、私たちは身の回りにある物の色や形によって視覚的だけでなく、心理的にも影響を受けやすいと説明し、部員達は時折うなずきながら興味深く話を聞いていました。

続いて2～3人1組に分かれ、用意された布の中からお互いに似合う色を探しました。色によって顔の印象が明るくなったり暗くなる様子が部員達は驚きながらも、色とりどりの布の中から自分に似合う色を楽しみながら探しました。土田さんは、洋服の色を選ぶ際は自分だけでなく第三者の意見も参考にしたら良いとアドバイス。今まで気付かなかった新たな発見も多く、有意義な研修会になりました。



▲投げたボールの行方を見守る女性部の皆さん

留辺蘂
**ボールの行方に
一喜一憂**

～支部間交流に
部員21人が参加～

女性部留辺蘂支部（飯田恵津子支部長）は11月15日、温根湯支部（牧野千代支部長）と支部間交流を行いました。

今回の支部間交流は両支部から21人が参加。留辺蘂町体育館にて、ペタンクを行いました。

ペタンクとは、黄色の目標となるボールに目がけて、両チームがそれぞれボールを投げ、最後に目標球に近いボールの数で勝敗を争うカーリングのようなゲームです。

女性部の皆さんは開始当初はなかなか思った通りに投げられなかったものの、回数を重ねるにつれて、相手チームのボールをはじき飛ばすなどの頭脳プレーも飛び出し、投げたボールの行方に一喜一憂する大盛り上がりとなりました。

その後、留辺蘂地区事務所にて昼食をとり、互いの近況などを楽しい話し、支部間交流は和やかな雰囲気のもと終了しました。

訓子府

**町民向けに
チーズ作り体験**

～地元の生乳で
作ったチーズを～



▲チーズの「形成」を行う参加者とメンバーの皆さん

訓子府町の酪農女性8人でつくる「モーモークラブ酪農酪娘（のらっこ）」は11月21日、町民と共にチーズ作りを行いました。

同組織は地域の酪農振興を目的に一昨年の11月に結成され、以来チーズ作りの技を磨いてきました。「地元の生乳で作ったチーズを町民の皆さんにも味わって欲しい」との思いから、今回より組織外にも声掛けを行いました。

小型チーズ製造機を導入したとはいえ、繊細な作業工程管理に参加者は「チーズってこんなにも手間を掛けて大切に作られているんだ」と、感動の様子。また「素材の味が感じられ、とってもおいしい」と、高評価を頂きました。

代表の大塚良子さんは「まずは何かをしよう、と始めた組織。私たちの取り組みが地域の刺激になれば」と話してくれました。

わが家のアイドル



置戸地区・北光

安藤 更紗(さらさ)ちゃん(4歳10ヶ月)
美南(みなみ)ちゃん(2歳4ヶ月)

元気な仲良し姉妹!

共に置戸町子供センター「どんぐり」に通っている更紗ちゃんと美南ちゃん。
更紗ちゃんは、おうちで洗濯物を干すお手伝いをしたり、美南ちゃんの面倒をみてあげたりしています。今年からピアノを習っていて音楽が大好き。歌手の安室奈美恵さんが好きで、DVDを見て歌ったりし、コンサートも見に行きたんだと楽しそうに話してくれました。
アンパンマンが好きな美南ちゃんは、人見知りをするとのことでしたが、「どんぐり」で何して遊んでいるの?との問いかけに「友達とブロックで遊んでる」と教えてくれました。食べ物の好き嫌いはなく、キムチも食べちゃいます。仲良し姉妹二人に「ハキハキと活発に育ってこればいいです。欲を言えば勉強が出来て」とお母さんの泉さんは話してくれました。

置戸地区・北光の安藤正文さん、泉さん夫妻のお子さんです。

Pretty Woman ウーマン



女性部に 入りやすい環境に

北見地区・豊地

井上 峰子さん(56歳)

今回は女性部北見支部・支部長の井上さんに登場いただきました。

◆出身、ご主人との出会いは?

雄武町で7歳まで過ごし、その後北見に引っ越しました。高校を卒業後、北見のガソリンスタンドで働いていて、当時お客さんとして来ていたのが今の夫です。母は農家に嫁ぐことを心配しましたが、私は楽観的な性格なので「なんとかなる!」と思い、23歳で結婚しました。

◆どんな家庭?

長男と長女はそれぞれ働いていて、二男が後継者として毎日頑張ってくれています。

夫はちょっと短気なところもありますが、役員の仕事や私のやりたいことはいつも快く後押ししてくれます。

息子も含め、何事にも協力してくれる家族にはとても感謝しています。

◆趣味は?

仕事が落ち着いたら、冬の作業着を作ったり、パンフラワー(粘土で作る造花)の教室に週1回通っています。また夏場は夫と息子が世話をしてくれて家の横でポニーを飼っています。とてもかわいいです(^▽^)

◆今後の活動に対する抱負は?

フレミズから女性部に入りやすい環境づくりをしていきたいです。もちろん突然は難しいと思うので、お子さんと一緒に参加してもらえ活動などを通じて、少しずつ交流していけたらいいと思います。



きたみらいの ホープさん

- 趣味は?
ミニバレーなど運動全般です。
- 理想の女性は?
リードしてくれる年上の女性がタイプです。
- 休日の過ごし方は?
愛車のジムニーで街に買い物に行ったりします。
- 好きな食べ物は?
ラーメンが好きです。特に塩ラーメン!
(一押しのお店は「たんぼぼ」です)
- 結婚はいつまでに?
今すぐにでもしたいです。恋人募集中です。
- 今後の抱負は?
出来るだけ早く一人前になりたいです。
覚えることを一つ一つ覚えて行きたいです。

早く一人前に!

温根湯地区・滝湯

武田 浩輝さん(25歳)

2月号の「ホープさん」はJAきたみらいの青年部?支部の?さんを予定しています。広報編集委員が突然取材にお伺いすると思いますが、何卒、ご協力願います。

武田浩輝さんは野村農事(株)の従業員で青年部温根湯支部に加入して1年目になります。

Q結婚のきっかけは?

お互い同じ中学校で知っていましたが、高校3年生の時に友達で集まっていたなかで意識して付き合うようになって4年、雅年さんの就農をきっかけに結婚しました。

Q趣味・娯楽は?

雅年さん…… 映画鑑賞、麻雀です。

亜美さん…… 買い物に行くことや、カラオケが好きです。

Qこれからしたいことは?

大雅くん(息子さん)が大きくなって落ち着いたら、みんなでディズニーランドに行きたいし、子供ももう1人か2人欲しいですね。家族が増えたら新しい家にも住みたいです。これからも家族なかよく、幸せな家庭を築いていきたいです。

Qお互いの感謝の言葉

雅年さん…… 家事や、子育てをいつも任せてしまっていますので、いつも感謝しています。

亜美さん…… 毎日がんばって働いてくれてありがとう!

子育てもできる範囲で手伝ってくれるので、感謝しています。

亜美さんにだっこされている大雅くんは、今年12月5日で1歳になります。



ながよし夫婦

家族なかよく、 幸せな家庭を

端野地区・三区

沼崎

まさとし
雅年さん(24歳)
あみ
美さん(24歳)

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



11月号クイズの当選者

11月号のまちがいさがしの答えは「3, 5, 8, 10, 11」でした。正解者48名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの高橋常務にお願いしました。

()内は地区名

- ・長谷川和子さん(温根湯)・坂下 恵子さん(留辺蘂)
- ・小野 栄子さん(相内)・平塚 志菜さん(訓子府)
- ・林 愛織さん(訓子府)・斉藤 義博さん(訓子府)
- ・井上 杏胡さん(置戸)・今田 涼花さん(上常呂)
- ・亀谷 拓矢さん(北見)・西尾真理子さん(端野)

以上の方々には、JAきたみらいのおひさまカレー(甘口・辛口)各2箱をプレゼントします。

応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、ふじや菓子舗(温根湯)の白花豆お菓子詰め合わせをプレゼントします。

今 年も、ようやく農作業も終わってホッと一息…。就農してまだ2年目。周りの人達に助けてもらいながらの1年でした。本当に皆様へ感謝です。

(置戸地区・鈴木 剛三さん)

本年の農作業本当にお疲れ様でした。一人ではできなくても、皆で協力し助け合うことで多くのことができることに日々感謝です。これからも、相互扶助の精神で地域を盛り上げましょう!

カ レー、味見してみたいな。

(北見地区・亀谷 拓矢さん)

JAきたみらい自慢のカレーですので、ぜひ食べた感想を聞かせてくださいね。

雨 不足の夏も終り、いよいよ冬がやってきますね。5月末の雪…また10月の早雪にはびっくり。6月～9月の4ヶ月だけの春夏秋冬だったかな。また来年に向けてゆっくり冬眠しましょう。

(相内地区・高橋 正保さん)

本当に今年は、天候に振り回された一年でした。これから、どんどん寒くなりますので、しっかり着込んで風邪に負けない冬眠を!

毎 月、楽しみにしています。子どもが産まれて、いろいろな行事をCHECKさせてもらっています。今後も楽しみにしています。

(訓子府地区・岡崎 和久さん)

ご愛読ありがとうございます! 今後も、地域の行事をどんどん紹介しますのでぜひ、ご家族のお出かけ先の参考にしてください!

元気な先輩

訓子府地区・実郷

小野 勉さん
(75歳)



刺激が大事

勉さんは昭和13年生まれ、中学校を卒業後に実家の農業を手伝い始めました。当時は水稲中心に約4畝を作付けていました。2～3年ごとの凶作、手作業中心の厳しい農作業のなか、楽しみといえば何といっても祭り。日頃の作業の疲れを祭りで発散することが楽しみでした。

勉さんは旧農協で18年間理事を務め、その時の出合いや交わした議論にとっても刺激を受けたといいます。玉葱の作付けが増加するなか、技術者の育成や土づくりを基礎に、全国一の産地を築いた立役者のお一人です。

現在は年金友の会の会長を務めており、常に「どうやったら楽しい温泉旅行ができるのか」を考えることが楽しみであり、やり甲斐です。「これといった趣味はないなあ」と話す勉さんですが、日記は50年以上続けており、農協や町の広報誌をはるか昔から収集しています。何でもよいようなことでも積み重なれば「変化」が見えてくるし、それが「歴史」となります。

最後に、「健康の秘訣は仲間としゃべることと草取りなど細かい仕事を見つけて体を動かすこと。やっぱり刺激が大事だね」と話してくれました。

ほのぼのの広場

大きくなったら



留辺蘂地区・瑞穂

村上 陽(はる)くん(12歳)
凛(りん)くん(10歳)
蓮(れん)くん(4歳)

種芋をつくる農家に! 陽くん(中央)

大きくなったら、お父さんが種芋をつくっているのだから、同じように種芋をつくる農家になりたいです。

白花豆をつくる農家に! 凛くん(右)

僕も、同じように農家になりたいです。白花豆のコロッケが好きなので、自分で白花豆をつくってみたいです。

トラクターに乗りたい! 蓮くん(左)

トラクターが大好きなので、大きくなったらトラクターに乗る農家になりたいです。

村上孝幸さん、郁恵さん夫婦の3人兄弟です。陽くんと凛くんは卓球少年団に入っていて、毎日練習に励んでいます。3人は、お父さんの働く姿を見てずっと農家になる夢を持っているそうです。

思い出の写真

この写真は、今から10年程前に地元公民館で行った結婚披露宴で一明さんが新郎新婦をイメージしながら作ったウェディングケーキです。

かつては当たり前だった地元での結婚披露宴。発起人約50人で披露宴の計画を練り、役割分担を決めます。そのなかで、「みんなで食べられて喜びを分かち合えるウェディングケーキを作りたい」と自作ケーキの提供を立案。入刀部のみ食べられて後は飾り物のケーキが主流だった当時としては画期的なアイデアでした。

写真のケーキをよくご覧ください。4個分のスポンジを並べた土台の上に丸いホールケーキを載せるという超豪華な光景。ホールケーキを支える足はふ菓子を使っています。当日は重さで徐々に傾いてくるウェディングケーキにヒヤヒヤしっぱなし。それでも数年後には、遂にミラクル3段ウェディングケーキを完成させてしまいました。おまけに一明さんのウェディングケーキを食べると子供が授かるという御利益までついてくるとか。

最後に「手作りだとやっぱり思い入れがあるね。今でも集まりがあるとケーキを作ってみんなで食べるよ」と話してくれました。



▲2日がかりで完成させたウェディングケーキ

手作りウェディングケーキ

訓子府地区・北栄

小林 一明さん(53歳)



INFORMATION

主張発表で相内支部 最優秀賞

オホーツクJA青年部研修大会



▲主張発表で最優秀賞を受賞した林尚哉さん

オホーツクJA青年部協議会は11月14日と15日の2日間、温根湯温泉ホテル大江本家で第43回オホーツクJA青年部研修大会を開きました。「俺たちの挑戦」を大会テーマに掲げ14単組から約130人が参加しました。

JA青年の主張発表大会や各単組が作成した地域農業をPRする1分間CM発表、分科会としてホクレン北見支所と5つのテーマを中心に意

見交換を行いました。

青年の主張発表大会では、斜里町青年部、ところ青年部、きたみらい青年部の3単組が出席し、日々の農業や青年部活動を通じて感じた将来への希望や提言を発表。当青年部から出場した林尚哉さん(相内支部)は「食と農の架け橋・揺るがないもの」と題し、国産や地元産を支持する消費者を大切に、安全・安心なおいしいものを届けたいと発表し、最優秀賞に選ばれました。

林さんは、オホーツク地区代表として12月5日に開かれる全道青年部研修大会に挑みます。



▲当青年部から36人が参加した研修大会

道内各地の女性部員と交流

JA北海道女性大会

JA道女性協議会は11月7日と8日の2日間、札幌市内のホテルでJA北海道女性リーダー研修会・北海道家の光大会を行いました。道内の女性部員約530人が集まり、JAきたみらい女性部からも役員7人が参加しました。

道協議会の岩永かずえ会長は大会冒頭の挨拶で、メディアを通じた情報発信や料理教室等で各地の農家女

性らの活動をPRしてきた成果を説明。「研修をすばらしいひとときにし、1人でも多くの仲間作りをしてもらいたい」と部員に呼びかけました。

初日は女性部員による「家の光記事活用体験発表」、「田舎のヒロインわくわくネットワーク」の山崎理事による講演、北海道ウオーキング協会の原田会長による健康を保つウ

オーキング術のレクチャーを受けました。

2日目は記事活用体験の審査・表彰と、女性部員による加工食品や手芸品などを集めた「手作り工夫展」が開かれました。道内100の女性部組織から、シャムやジュース、バッグや編み物など約400品が集まりました。展示会での販売はありませんでしたが、作り手本人らが集まって互いに作り方を教え合うなど、交流を深めました。

参加した役員の皆さんにとって、道内各地の女性部の取り組みを知る充実した研修会となりました。

平成25年度 JA北海道女性リーダー研修会 北海道家の光大会



▲大会に参加したJAきたみらい女性部役員の皆さん

優勝目指してチーム一丸!

フレッシュユミズ運動会

JAきたみらいフレッシュユミズ(穴田優子会長)は11月12日、訓子府町スポーツセンターで8支部合同研修会「運動会」を開催し、昨年よりも多い73人の会員が参加しました。8支部統一活動として、設立当初から取り組んでいた「会員研修」を平成21年度から「運動会」として、今年で開催5回目となりました。

参加した会員は、支部混同の赤・青・黄色・緑・白・ピンクチームに分かれ定番競技から新しい競技「借り人競争」「風船リレー」まで、優勝



▲選手宣誓する森谷支部長(左)と米森支部長(右)

目指してチーム一丸で挑みました。

どの種目でも熱戦が繰り広げられ、なかでも「借り人競争」では、三役による趣向を凝らした、定番からユーモア溢れるお題の人を求めみんながダッシュ!毎回転倒する人が出るほどの盛り上がりでした。最終種目の「作業着お着替えリレー」ではポイントが大幅アップし逆転のチャンスも狙えることから、どのチームも気合十分で、見事青チームが1位でゴールし、総合優勝を勝ち取りました。

終了後は、同地区事務所「懇親会」を開き、お弁当を食べながら、運動会の話や日頃の子育ての話に花が咲かせていました。また、チーム



▲スポーツでリフレッシュ!みんないい笑顔です!

対抗のゲームでは、「穴埋め川柳」も「イケメン名前当て」でもチームで話し合いながら協力して回答。笑いや歓声が沸きあがっていました。運動会と懇親会を通して、他の支部の人とも盛んに交流が図れ、楽しいひと時となりました。参加された皆さん、お疲れさまでした。



▲3人で息を合わせて、いち・に・いち・に...



▲狙いを定めてエイヤ!



▲定番となった「作業着お着替えリレー」

INFORMATION

第10回 理事会報告

11月26日、午前9時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項9件、議決事項9件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①内部監査報告（総務企画部門）について
- ②組合員状況報告について
- ③財務状況報告及び決算見込みについて
- ④JAきたみらい合併10周年記念式典開催報告について
- ⑤平成26年度職員採用について
- ⑥合併10周年記念「ふれあい農業祭」収支決算について
- ⑦2013長いも祭り&収穫感謝祭実績について
- ⑧H25年産玉ねぎ、馬鈴しょの選果販売状況について
- ⑨理事研修について

【議決事項】

- ①出資減口及び持分譲渡について
- ②年末手当の支給について
- ③1億円を超える信用の供与等の設定について
- ④災害対策資金貸付要領の一部改正について
- ⑤当組合との利益相反取引にかかる取扱いについて
- ⑥平成26年度事業推進方針について
- ⑦JAきたみらい学習大綱の策定について
- ⑧固定資産の取得について
- ⑨貸付金利息の期中還元について

営農誌申込み等のお知らせ

- ・家の光、地上、ちやぐりん
- ・日本農業新聞
- ・ニューカントリー
- ・デーリーマン
- ・農家の友
- ・現代農業
- ・酪農各誌（デーリージャパンなど）

上記、営農各誌の購読についての申込み または 中止の連絡、問い合わせにつきましては

企画振興グループ（☎ 32-8786）までお願い致します。

（配達員などに連絡しても、伝わらない事がありますのでご注意願います）



▲1時間で完売した1袋500円の長いも

JAきたみらいは11月7日、きたみらい野菜振興会の「長いも・ごぼう部会」と協力し、「長いもまつり&収穫祭」を開き、約3,500人の地元消費者でにぎわいました。同まつりは、今回から北見市民の台所を預かる市内東相内のマルキタ地方卸売市場に会場を移し、収穫感謝祭と併せて開かれました。会場には早朝より市民の行列ができ、予定より15分早めて開場されました。主催者を代表して挨拶に立った坂下専務は「生産者の皆さんは、干ばつなどの影響を受けながらも収穫作業に汗を流した」とねぎらい、

「粘りのある長いもや、市場の協力によるマグロの解体実演も行われるので楽しんで下さい」と呼び掛けました。会場には約16トンの長いも他、玉葱、馬鈴薯、もち米、高級菜豆など特産農産物やJA加工商品約30種類が並び、1時間ほどで完売する盛況を見せました。7時30分頃から並んだという北見市内の夫婦は、「長いもは高品質で値段も手頃なので、毎年楽しみにしている。遠方の親戚などに送ると喜ばれるので、今日もたくさん買いたい」と話し、会場内に入っていく姿が見られました。



▲早朝から市民の行列ができる

「長いも」16トン1時間で完売 長いもまつり&収穫感謝祭



▲リフトが廃プラで満杯のフレコンを運び出す

農業用廃プラ回収が11月6日、7日の2日間、西相内のJA小麦乾燥調整貯蔵施設で行われました。廃プラスチックの処理にあたっては、環境負荷の軽減、資源の有効活用などから、再生可能な資源として出来る限りリサイクルをすることが求められています。JAでは農業用廃プラスチックの



▲色づいた山肌を背に組合員のトラックが連なる

秋の農業用廃プラ 134トン回収

排出時期に合わせ春（6・7月に実施）と秋を重点推進月間として回収作業に努めています。今回は農ホリ117ト、農ビニール8ト、農業空容器7ト、ビニールホース2トの計134トを回収し、処理業者によって適正に処理されます。

「オホーツク農業の将来とたまねぎ生産」と題したシンポジウムが11月13日、北見芸術文化ホールで開かれ、農業関係者約200人が集まりました。この催しは、玉葱の生産量と品質の向上、栽培方法などを紹介し、将来のあり方を探求する目的で、北見農試、東京農大、北網圏農業懇話会が主催したものです。講演に立った中央農試の平石主査は、「農業センサスから予測するオホーツク農業・農村の近未来」と題して、「近年、府県玉葱の減少を道産でカバーしきれず、供給量の動向を説明。また、「近い将来、北見地域の耕作面積は、斜網地域並みに増加する」と指摘し、それらを見越した対応が必要になると提言されました。このほか、壇上に立った講師より、「たまねぎの機能性と加工適性」、「たまねぎ



▲講演後、たまねぎ生産の将来像について、パネルディスカッションを開く

玉葱の生産と将来を探る

シンポジウムに関係者約200人

に関する近年の研究開発動向、「たまねぎに対するりん酸減肥技術」、「加工利用サイドの取り組み」と、それぞれ講演を行った後、オホーツクたまねぎ生産の将来像について、パネルディスカッションが行われました。



カキと冬野菜の炊き込みご飯

【エネルギー349kcal(1人分)】

【作り方】

- ①米をとき、冬場は約1時間浸水してから、ざるに上げておく。
- ②カキは塩水で優しく振り洗いし、殻が混じらないようにする。鍋に調味液を沸騰させ、カキと千切りにしたショウガを加え、カキがブリッとするまで3〜4分煮る(煮すぎると身が縮むので注意)。
- ③鍋からカキを取り出す。
- ④サトイモは皮をむき、1.5cm角に切る。レンコンも皮をむき、4〜5mmの輪切りにしてから食べやすい大きさに切る。シメジは石突きを取り、1本ずつ分けておく。
- ⑤③の煮汁に水を加え、2カップ分の炊飯用調味水を用意する。
- ⑥鍋に米と昆布を入れ、⑤の調味水・サトイモ・シメジ・レンコンの順に加えてふたをし、中火にかける。沸騰後、ごく弱火で15分炊く(炊飯器の場合は、全ての材料を順番に入れて炊く)。
- ⑦ご飯が炊き上がったたら、取り出したカキをご飯の上に載せ、約10分蒸らす。その後かき混ぜるときは、いったんカキを取り出す。
- ⑧器に盛り、お好みで芽ネギを添え、スタヂを搾っていただく。

【材料：4人前】

米	2合	調味液 だし汁…カップ1・1/2 しょうゆ ……大さじ2 みりん ……大さじ2 塩 ……小さじ1
カキ	200g	
サトイモ	150g	
レンコン	50g	
シメジ	100g	
ショウガ	1片	
だし昆布	5X5cm	
スタヂ	1個	
芽ネギ	少々	

メモ

プリプリのカキ、モチモチのサトイモ、シャキシャキのレンコン。旬の食材をたっぷり味わえる、炊き込みご飯です。カキはご飯と一緒に炊くと身が縮んでしまいます。先にサッと煮て、ご飯を蒸らすときに加えると、おいしく出来上がります。



ゴボウのコトコト養老煮

【エネルギー108kcal(1人分)】

【作り方】

- ①ゴボウはたわしで洗い、5cm長さに切る。
- ②土鍋に厚手の鍋に、ゴボウ・水・梅干しを入れふたをして火を付ける。
- ③沸騰するまでは強火、その後弱火で8時間以上煮る。ゴボウが水から出ないように、途中水が少なくなったら、適宜加える(あくは取らないで大丈夫)。
- ④器に盛りつけ、お好みで白ごまを添える。
※途中で外出する場合は火を止め、合計8時間以上煮れば大丈夫です。

メモ

ゴボウを梅干しだけで長時間煮る、健康的な常備食です。ゴボウがほろりと、今まで味わったことのない、優しい味になります。10時間煮ると常温で1週間、30時間煮ると常温で1ヶ月持ちます。おせち調理の箸休めにもなりますので、まとめてたくさん作っておくと便利な一品です。



【材料：2人前】

梅干し	2個
ゴボウ	2本
水	900cc

編集後記

- ・天候に左右された平成25年も残すところあとわずかとなりました。街の雰囲気もクリスマスのイルミネーションとともに華やかに輝いてみえます。
- ・合併10周年記念式典が行われ、この1年で行われた記念事業を締めくくることが出来ました。ご来場頂いたみなさま、堀内孝雄さんのショーは楽しめたでしょうか。
- ・風邪やインフルエンザの流行が見え始めていますが、皆様におかれましては晴れやかな新年を迎えられるよう、体調にお気をつけ下さい。
(高田 陽介)

JAきたみらい概要

(平成25年11月18日現在)

- ・組合員数(正) 1,775人
- ・組合員数(准) 5,546人
- ・組合員戸数(正) 1,177戸
- ・貯金 102,496百万円
- ・貸出金 20,135百万円
- ・出資金 5,041百万円